京都古物誌 前編 五

へ 13
432
5

太平百物語卷之五目錄　　第編

○三十九　手紙集太代物語ふるはなしの事
○四十　信濃国諏訪ゆるされだけものの事
○四十一　力士の妻盜人を追退け事
○四十二　幼童法慶霊異乃事
○四十三　能登国伝ものしきの事
○四十四　狐猫まつ殺しの事
○四十五　狐狸化物の事
○四十六　獣人とする物を殺す事
○四十七　杉田ある事ありきを切り事

○四十八　紙屋れだけ和乃事
○四十九　天物言葉をかなせしの
○五十　百物衣をして立分せしの

以上前編終後編に出ず

へ 13
432
5

平百物衣考之巻

○世九　主殿寮年右伯耆守

伊豫国より紙集太少つ来りしが。所の役人ども。松山
小用ありて行とて。茶屋にて休みしを立出ず。後をきりるが。
紙屋の男も行とて。人へバ。俄小日雪降り。年右おもふに。日も未
午の刻ふかるべうと。後をあく日の雪降る事のふしぎさ
少こなひ。向へ出をこれば。男人の来る人へ。所の元遠ふ
人へ来る。紙屋にて。まを呼きれば。ゆうあやしげの老
女出いでぬ。そと言へ。海さんは見い。旅人まそしが来
ぬ。そらく待りて。ゆよ。俗よ雪降り。けふよ一日を暮

さてもさびしくとつぶやき若女きてぞ泣いりぬ。ぜんぜんとして
く。なんぞ者をかりり。年たけて病び。内ふかく体ひりりちちば
らくありて。年たけふりりて海に投ぜめりくとゆきぎ
出ず。そこにて捨てを。所にうかぶまで。ぬるかく
ゆるばば。ねを堀ありと。軽くいたくりれを。ぬるく張
くりて。ちゐ者おのりハ。捨てぬれやね為りれば。ハいて
おを迎ぬとする。納戸も為を。年たけ侍の捨て例れり
かりて。天井御ふ年たけふ為ちりれば。今ハ中く動
くぬまやりりて。ちをハりふ泣さりびやれくゆ
けのへとりあきりれば。けれ水の人くちれを年付ぬちち

海よりある三特ふ辛紅嘴ぬおゆ。ぬづき泣ぬりし
うばありあふくはきれ果やりくゆけおりもば年たけ
紙してそこに残りふ。ぬるく墓ぬて捨てとしいて
ハりゆて。おやおびへもそ伝えの日を立りりれば年た
ちきれ手ちきりあゆけ出られぬりを捨ちへ
ハ行ぬして。ハ五。門のふ泣ぬーとりを。けん日ごろ。
ぬるくの人をちぶりりる式きりぬの為てかく帰る
とで戸会りる

○四十　伊豆国縁るれ代面のす

ゆりる式きの出れ為ちを。三井とりぬふへりとそよ代地の作

やうの式。おのづから通ずるがむかふのまちに諸人おほく
いるときあるは体の吟へられば此僧ものやはらかく更
て俗のへりくるまでみるるぞと思ひるぐ。あるふくそ
りうる。婦の者ひ手くくよりくたりくぱ八十百十百計ふ
もなるうんとなるふわれぱ四方をきつとうくるよ。ろ年は
なるぐーくくもあるかも見へぱ。こはぬぎくおひひぐ。境
のふかれ絶ばかの濃るいるくて行ふゆ。此僧いるくはの
しみ田まれぱ境よりおふいるべきたるる。ゆ。ふ富さて。
主男くなくきけば。境のよまあるるくとなゆ。さくばいるく
見宝めんと濃てきてくれるるふくへぱ。ぐーくくこ

上れ濃ふゆ。ゆ。ゆ。

を投げ。義の肉れ薬肉をさせける。高力なく。広義よはひきれバ。組まをあつ。あ人の豆人をつ義つげ出んとせ時。俄よ義の中へ動して。一人の力士彫れいぐ。豆人ホグ。ホ力士豆人をつ義つ。義れバ。人の力士豆をつ義ふ。ぶい糸無力して。組ハ金のごとく光つて。そ義れ世ぶ。加ぶれバ。豆人ハ糸を滑し。彼豆を折ぶ。さんふ迎ぶ義れバ。義の中も組ぶく。ぶ力。彼力士も足へぎりり。義ふ彼をみて。張ぶく。ぶ義ぶ。ぶく。義の去ていまもを知て。ふくのを彼義れバ。老母横ぶを折。義ふ彼ぶ。ぶ義ぶ。ぶ力士の横張義ぶ。義ぶ去

の二階ふみべ。ふくふれ出。えもとつて行よ。はて知い
ぐ。みるよ。けは係子をちがつて。ぜ。るが。ぬ見をこれ
ばたも付て。ぬ。ぜ。移よ。ぬハ。けぬ。ぬ。ぜ。なし。て。ま
を。ぬ。ぜを。移。け。カ。ぜを。ぬ。ぜ。永く。ぬ。ぜ。ぬ。ぜ。ぬ。ぜ

殺生やつるつ。殺生の半ふの色付る殺ふと信せられ
ば。色を糸ひうを吹さも行るるるやとて。いろ〳〵ゆや
〳〵おもひりり

○第三　絵をの間仕者やきのう

絵をの間。仕者風雅ゆりて。おりく人を見りるよう。
殺ふ。ゆ者風雅ゆりく八仕人もちるるし。ふ。米間八
十八とるふ絵おるるそ。ひ風雅を不申。ぬるて仕りる
絵を在仕者ふ知ぶれば八十八年つく。さるるゆりべし。
仕者も人ふるるそ出るめと。特郷を拾るしが。ゆるる
源氏ふ物ふび。剛ふひるるよ。りるる出き毛のふるて。

十八が風をるるで。ふるる。さられば出るるとて。絵りぶふりぶさ
せ。絵て〳〵とるまへる。力ふ仕色いりれば。仕米〳〵よ毛くの
びりるが。米をきるるとんと絵ば。風ね殺めるるく。さもすき
まぶき絵〳〵身ゆ乃ふ。八十八をるるとる白狐。八十八も
同じくゆるる付。光ひるるを絵ふ出るるよ。出ーとる力む
を八十八大力米れ出るれば。若もゆく〳〵出ーりるふ完
るる白狐〳〵仕者を仕者。るる絵くられば仕ゆる手
ちりる。絵るるゆるゆ仕ふゆ。米ふ員ど
ゆ米ひが八十八力や絵ふきりん。絵ふ仕者を仕者やる
くゆるる教ーりるが。絵力も不〳〵疵を影やりり

取出てられば。猫は初めうるみてぞ居りける。そは飯食のう
らふまゝ。ぬりうるに猫の面をぬりて。猫を怪しくおもひ。あくき
らをこうるに。第て猫ふいに。人の肥ほく
なりとぞ。八十八ぢけ物を過ぎて。後ハ。何のやもな
くられば。八十八ぢ。力ふ歌の程をめんじる

○第四　河伯猫まくを切しる

河伯ゆかりて朋友に方へ和合ふゆれりるよれく武蔵の地
をして後。所よゆれりるが。出んとするふ。ぬの旨祝ぢとたりく。
出はなり。こハいかと思ひ。ぬをきりとるふ。罷れ光ぬ和品
ぬごとくなる。ぬ。河伯の話をあうとやく〳〵。ぬをあるる

されば。河伯ぬをうて力をぬき放し。ぬをく
切付くられば。ぬを地あでそ。ぬりを抜ぬ
あ人くけ。ぬふ。ぬき出てられば。侍仮ふ程入しのり
られば。ぬぎ。ぬふを。ぬ。ぬを。ぬ。ぬ。ぬ

○昔人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しきて一ぢやうまひりるが。母のおほんもなりしかば。彩アぐつふまきつぐ。手動するうばはくさて
ゐを付て足のつよ。はしゐらはるしかるくあのるあをぎつとおくとあふよさしも分き強し
かるしも。匂ち沼つくりぬふおるはかをとりてあをきし。
彩アあひくひ行るるいかをあくまで。彩アてこ
そのよ紙四まへてそ彩アるを結望の日彩アあ
とをるよあをきと袖のをを拔しらはば。彩アをぬくを
墳所ひくえれば。ぬ熊まを狂戻といふの字遊り
所りて。物のををを彩アるを血ながるれおしり。彩アを

ちるはひりをの小力をきしまひりるはあやと。彩アぬも者の手と
ふひををし。おるくへしき百姓を拔きて。山事を洗るよ。山の山
いをくぬうしはおるあ和紙とをへるる人倚て。人のるよ無ををるう
血ををぶりれ殺しけるる。法紙ををるく。鑑をを中ふうづみ。
彩アよ墳を蒲をき吊らはるしまをををあを。彩アを
和紙をを彩アぬされば生倚山屋よ。おるくを出
るをいひ倚へしをを。人をるくはざりしぐをはるはるを
ひしよ。ぬふも沼ふまをひ倚ぬと。あく沼れば沼はは
彩アをひ。ふ沒のるふおぐして。別二をを言ぐ分和紙と結
ぬををを吊らはれば。ををはいを沼る家和もみく。

何のゆもたちりれば。四郎兵衛尉殿あがりあるべし

○四十六　樵人とすまの浦人

すまの国よりの海辺に高砂とつまとの者ども一つ所にすみて。田地をおりる。孫ハ。常ふ下人をきして耕作をさせる。一日毎のごとく耕作す。孫ハとつまとの下人をつれてまいる。とつまの下人十一才なるが山へ入て樵びわら。孫ハつまの。とりハ。紅の袴又黒ぬりの。おとりてまいりて。ゆかしてゆかしく。ゆかしてゆかしく。ゆかしてゆかしく

うへんと思ひ、ほうちとして。もてくだりしが。孫八かうをよちん
なれば。そこの住ゆふ、抱てこふ。宮角を目あふなげ付
れば。腰を叩ふ打拵き。ふるの腰まく、米一斗だうして。鬼
鞠とちりて。ちり。孫八打つひ泣て。ちうまの鍋あか
くなりて。行方しらず。四の代付てはどりをりい泣く
小ちうや。こうがまを結を野ぬ。ましけ敷をえんどんば。何までも
泣なまし。泣やくく呼ひしくば。ちうまの鍋。ちうまかどうき。
なくこまあ場とて。鍋鍋を取て。行衛しれくふ。俺りれば。
やうくふ和の紀藤ちり。紀ども。孫八ん家つうくをなの力を
ちりへ。泣ん家ちりうや

○にしき十七　杉田文市猫を切しる

ある角に米をやし。ぬ杉をとる毎おく俗人元ちうと
通られるよ。牛ちうに行ちひ。町ちうまてふき女に猫
猫ちる紙かぐきて。只一人いとまびやん通ちくば俗人元
俗をきて。ちうのうみおひ。紙を付て紙をりるよ。女ふ
ア泣ちて。蛇ちをちうひ。野ふ歩をいりうき。
くちやくちもひ。杉くちの蛇ふくぐよ。女ちぐひくちけ
るくなりて。ちき水杉に。まの猫ふ泣ちくば。
うしをちく。俗人元ちうへ。かの猫が
猫ハ日月のごとく。にハ年にりをちつと猫をちれば。
泣ふおどろに。

鬢を乱し一肩脱ぎ一つの角を生やしくばさしもあるべき
くも多の毛ぶつと立りれば怪しきかたへふりかぶり中
小松田太市郎と云人心強き武男にて怪物と搦取
れば切付くれば手負ひ倒れ怪物ハ流血して
しかも苦の息にてぐつと笑ふてさるハ何ぞ
なるらん。縛くまけバ。ぱつと変る数百年を経し古狸乃
わなりとぞいひ伝へつるる

○第八　鉢屋ぐつわ

阿波の国よ松屋町ハ云ふ鉢屋伝ふ。鉢屋の頭バ
あ。家内伝へ弾ぐうしくべ。あ八月笑て伝ふと

又ゝ[illegible]けるよ。[illegible]乃[illegible]ハちきゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝとなげて。
是二ゝ[illegible]て[illegible]を歩きるゞ。[illegible]物[illegible]つゝ[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]
りを。[illegible]く[illegible]ひ[illegible]て[illegible]
[illegible]ゝ。ゝ八[illegible]体を[illegible]
しゝ[illegible]ゝ[illegible]て[illegible]ひ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ

動園は方手寸、ほ〻切られ
られば。そ手ふ天狗は物は
手ふかもひ。いづれは物を
ふかもふ女房をは馬鹿を。
切られば。ほもあふ都は
ちんこぢ。ほきれ。
せもひ。是天狗は
お捕るか〻。
こちらやは是りん。
傾て四ッ半伽去の子とふ手をもぢ。武人のつふ。是八

のるをいはるのまきんぴらあふ附屋にてちぐはのやうなつひの
りもいひはつるぬ。ほれうをせりもちろんいきるべーされ者
ざるやちんぴやに

○ふ十　百物語をして主人せり

武田をれるあるぬ。ふ一未十ばかるを白のふぶ。ほるりれ事を
ア。ゆるとなきさを引ひて。ひるはるを。ふ出さを引ひるよ。ふるれ
れ。ほるる物のゆるるく。ゆるりるを。ほるれりてぴるれりを
ゆ。ほれいるふと。ほるられるれば。ぴるれば。ひるゆるるんの。ほるひやん
とて。別ほるゆ中へ解るぶ。ほてれ。ほるれるれば。ゆるれ。ゆるれ
ふ。ほるるひるる。進とぴちぴ。ふるて。ぴりるりいが。ふ。ほるれるを

おれ勧りふるふ。ふの。ほるひ。用るふ。ふりぴ。ほ。ほ。ほ

仕合のぞみ、をとりこうぐ者ありれば、だん〳〵賢なる人くも、ぞくしんの事、武ハゆゝしきひろう仕そ。天狗ゝ、猫程ゝ、ゝ。猫まこと、ゝ、ゝ。おそれ出るまゝ、ゝ。ゝ。ゝ。

作者菅生堂人惠忠居士
畫工高木幸助貞武
享保十七年子三月吉日出来
大坂心齋橋筋書林
河内屋宇兵衛新刊